

スローガン

*Remember The Basics &
Be Pioneering!*

基本を忘れず、先導的かつ開拓的に！

活動方針

- 1) 新規オープン事業を軌道に乗せる。
- 2) 既存事業のサポートを通じ、拠点ごとに磐石な経営基盤を構築する。
- 3) 次世代の人材の確保と次世代のスキルを備えた人材の育成にチャレンジする。
- 4) 経営理念や運営理念を見直し、全職員が一丸となり事業を前進させていくための羅針盤を築く。
【前年度新型コロナウイルスによりミーティング等の機会が持てなかったため前年度から継続】
- 5) アフターコロナの明星園らしい地域に根ざした地域における公益的な取組を再興する。

具体的取組み

I 中長期計画に基づく具体的取組み

1. 新規オープンした菟道多機能並びに居宅及び地域包括支援センター事業を軌道に乗せる
2. 鳥瞰的視座からの人材確保を通じ、拠点間の人材の過不足の解消に努める
3. 白川、菟道明星園の総合拠点の経営の安定化を図るべくボトムアップでの組織強化を図る
(稼働率確保のための技術的支援や拠点中長期計画の刷新及び価値観の共有)
4. ソーシャルワークのスーパーバイズ機能や、Ictリテラシーを持った人材を育成する
(法人本部から各拠点への指南、研修等の実施)
5. 職員が参画するなかで経営理念、運営理念の刷新を図る(前年度からの継続)
6. 広報戦略の強化により明星園の魅力を発信する
7. Iot や介護ロボット等の活用による生産性の向上(投資にあたっての間接的支援)

- ・ 菟道多機能は、令和3年2月に無事、産声をあげることができたが、コロナ禍等の影響があり十分な営業活動ができず、前半は新規利用者の確保に苦戦した。そもそも軌道に乗せるには一定の期間を要す事業であるが、法人からの指導助言等をうけ誠実に運営を続けることで、下半期には採算ベースの稼働率に乗せることができた。資金繰り面で脆弱さを残したが、本部からの貸付等により事業継続をすることができている。(未収金が現金化するまでに3か月を要すことから、現金化までの資金の貸し付けを行った。)
- ・ 職員の過不足については、下半期に特に顕著となり、人材確保のできる(立地面等)事業

所で追加募集をかけるなどして当座をしのいでいたが、その事業所ですら人材確保に苦慮する事態となってしまった。

介護・福祉系の専門学校や大学等からの実習生の受け入れの強化等を図っているが、種をまいて花が咲くまでに一定の期間が必要であることから今すぐの成果にはつながらない。次年度は、職員を講師に派遣することなどを検討し、中長期視座での職員確保戦略を練るとともに、短期的に、どのように人材確保をしていくのか検討していかなければならない。(ダブルワーク就労の弾力化、ハローワーク求人票記載内容の工夫、追加的な処遇改善等)

- ・ 菟道、白川拠点に限らず、コロナ禍等の理由により収益や稼働率を下げている事業所については、常務理事が指導するかたちでテコ入れを図った。7月試算表等から下降気味の事業所をリストアップし、それぞれに法人がフォローアップするなかで改善計画を策定させた。年度通して回復した事業所もあったが、低調なままに終えた事業所もあり、法人としては人事異動も含めた抜本的改革に着手せざるを得ない状況に追い込まれている。
- ・ 人材育成については、下半期にきょうと福祉人材育成認証制度の更新を行った。令和3年4月に介護保険関係法令が改正され、ガバナンスや教育研修体制について強化されたことから柔軟に対応すべく事業所間で情報共有を図り(主にメール等)一定の準備を図ることができた。また、この流れの中で9月に安全管理担当者研修を開催した。(省令における必須項目)
- ・ 経営理念等の刷新については、下半期にプロジェクトチームを立ち上げ準備を進めた。一定の成果物が残せたので、次年度には刷新を図っていく予定である。
- ・ 広報戦略の強化については、下半期から段階的にホームページの内容の更新等を進めている。他法人では、法人の機関紙やシンプルマークの刷新等をはかっているところもあり、次年度は、それらについても検討していく必要がある。「一年のあゆみ」は12月に発刊した。
- ・ 生産性の向上については、京都府の補助金等を活用し随時導入を図ることができた。事業所間のITリテラシーに対する意識の高低はあるものの全体としては向上している。次年度も引き続きIT化促進のためのスキーム作りについて検討していきたい。

II 地域における公益的な取組み

1. 各事業所・拠点において実施している、地域における公益的な取組みを展開、充実させ、社会福祉法人としての役割を社会に向けて発信する。

(以下、実施事業)

取組拠点 (事業所)	取組内容
白川明星園 ケアハウスあさぎり 白川介護サービスセンター 伊勢田明星園グループホーム	平安ロマン号 サロン白川との交流・合同事業 神明カフェ なごみカフェ/認知症相談窓口の開設 伊勢田保育園年長組との合同散歩 認知症相談窓口の開設/認知症キッズサポーター養成講座
菟道明星園 小倉明星園 伊勢田明星園 明星っ子こども園	三室戸小学校児童絵画展/明星地藏盆 うたごえサロン/きらめき創作教室 ボランティアルーム開放事業 園庭開放(遊びの広場)/クリスマス会/ピアノの会 卒園児同窓会に伴う施設開放支援

2. アフターコロナを見据え、新たな公益的取組を模索し積極的にチャレンジしていく
(こども食堂、地域の井戸端拠点、公用車の更なる有効活用等々)
3. 明星園を知ってもらい、魅力を発信していける機会として法人の機関紙を発行する
4. 法人全体の取組として実践研究(交流)発表会を開催する

- ・ 地域における公益的な取組については各事業所の事業報告に委ねる。
- ・ アフターコロナの公益的取組の模索については、残念ながら今年度においても新型コロナウイルスの収束の目途が立たず、緊急事態宣言もいつ発令されてもおかしくない状況が続いている。ワクチン接種率の上昇による集団免疫が獲得されたり、発症者数が統計的に下降する見通しが判明するなどしたりした暁には、率先して計画化及び実践を進めていきたい。
- ・ 法人の機関紙の発行等については、前述の通り。次年度への継続課題としたい。
- ・ 実践研究(交流)発表会については、コロナ禍のため、今年度も実施することは叶わなかった。

Ⅲ ガバナンスの強化に向けた取組み

1. 拠点ごとのセルフマネジメント能力(自己管理能力)の向上(一定の評価基準の明示)
2. 本部のサポート体制の強化(継続課題)
 - i 本部経費の弾力的運用の実施(人材確保、研修、広報、HP 経費の確保等)
 - ii 経営状況が厳しい事業所への貸付の検討
3. 情報の開示の視点から令和2年度版「一年のあゆみ」を発行する。
4. 業務執行状況をモニタリングできるよう常務会等を稼働させ現場レベルでの相互牽制機能を高めていく。(継続課題)
5. 世の中の動きに機動に対応できる(資金調達、資産、人事労務管理等)組織態勢をつくる。(管理職会議、常務会、理事会の開催等)(継続課題)

- ・ 拠点ごとのセルフマネジメント能力については、第三者評価や外部評価の受診を通じてサービスの質という視点からのアプローチ、法令遵守については実地指導や指導監査等外部によるチェックシステムからのアプローチによりセルフチェックシステムの基盤について検討した。各事業所レベルにおいては、他都道府県の自己評価システムを導入したり、全国社会福祉協議会の第三者評価シートを用いたりして自己評価をしていた。これらについては、トップダウンではなくボトムアップで相互にチェックしていく体制をつくっていくことが、ガバナンスに関わる人材の育成にもつながっていくので、次年度も継続課題として取り組んでいきたい。
- ・ 法人のサポート体制については、昨年度の理事会にて莒道多機能への貸付等について議案審議し、実施した。
- ・ 常務会については年4回開催した。いずれも理事会に向けての議案等について審議した。また、法人内拠点で新型コロナウイルスが発生したことから明星園グループ感染症対策会議を開催した。
- ・ 理事会については6月25日(金)の定時評議員会にて次期役員が選出され、当該役員で9月24日(金)に定時理事会を開催した。理事会については対面方式で計4回開催した。